

発生予察情報誌(阪神管内 南部・北部)

ハスモンヨトウ継続注意！！

発行：阪神地区営農振興協議会 農業技術分科会 2024年11月14日

11月に入っても、比較的日中は暑い日が続きました。ほ場巡回を行いました、ブロッコリーではハスモンヨトウ、ハクサイではアブラムシを確認しました。

重量野菜や葉物野菜の出荷が増えてくる時期です。早期発見、適期防除に努め、圃場をよく観察してください。

【ハスモンヨトウに継続注意！！】

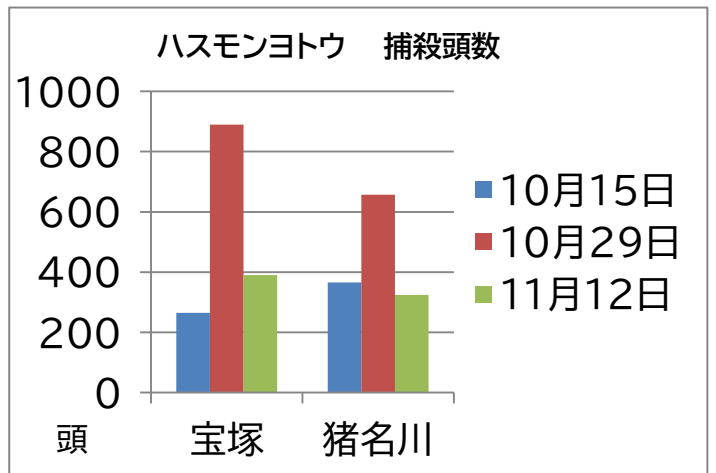
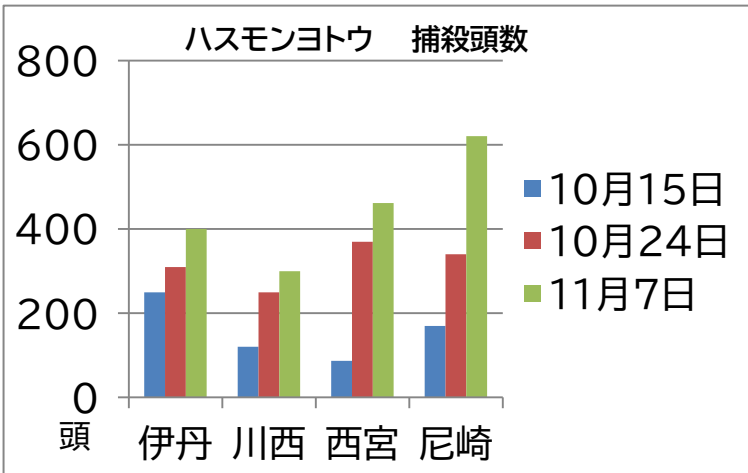
【概要】 葉裏に生息し、葉を食害します。被害部は若齢幼虫の頃は表皮を残して白色かすり状になりますが、多発時には葉脈だけ残しレース状になります。卵は数百個が一塊となって葉に産みつけられます。

【対策】 卵からふ化した若齢幼虫（1～2齢）は集団となって葉を食害しますがその後成長するに従い分散していくので、若齢のうちに葉裏に薬剤がよくかかるように防除を行います。また、卵塊を見つけた場合は、直ちに処分してください。



写真上 ハスモンヨトウの幼虫

ハクサイ・キャベツ・ブロッコリー・レタス		ハスモンヨトウ		適用農薬情報	
農薬名	IRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数	
アニキ乳剤	6	1000～2000倍	収穫3日前まで	3回以内	
ヨーバルフロアブル	28	2500～5000倍	収穫前日まで	3回以内	
ディアナSC	5	2500～5000倍	収穫前日まで	2回以内	



【注目害虫:アブラムシ類】

【概要】 幅広い種類の農作物を加害し、ウィルスを媒介します。吸汁により、作物の生育を阻害したり、枯らすことがあります。

【対策】 発生した株の残渣は、ほ場から持ち出して処分してください。世代交代が早く薬剤抵抗性が付きやすいので、

系統の異なる薬剤を組み合わせ、ローテーション防除に努めましょう。写真上:ハクサイに群がるアブラムシ類 葉裏にも多く寄生しますので、葉の裏側にも薬剤をしっかりとつけて下さい。



ダイコン		アブラムシ類		適用農薬情報	
農薬名	IRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数	
スタークル顆粒水溶剤	4A	2000倍～3000倍	収穫7日前まで	2回以内	
ウララDF	29	2000倍	収穫前日まで	2回以内	

ハクサイ		アブラムシ類		適用農薬情報	
農薬名	IRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数	
スタークル顆粒水溶剤	4A	2000倍～3000倍	収穫3日前まで	2回以内	
トランスフォームフロアブル	4C	2000倍	収穫3日前まで	3回以内	
ウララDF	29	2000倍～3000倍	収穫前日まで	2回以内	

必ず農薬のラベルを確認し、使用基準を順守下さい。本件に関するお問い合わせは、お近くの営農支援センター又は阪神農業改良普及センターまで。

JA兵庫六甲のHPにも掲載。生産者の皆様へ<<その他>>阪神南部地区・阪神北部地区 野菜 水稻情報を参考下さい。

発生予察情報誌(阪神管内 南部・北部)

ハイマダラノメイガ(シンクイムシ)・ハスモンヨトウ多発！！

発行：阪神地区営農振興協議会 農業技術分科会 2024年9月10日

9月に入っても、猛暑日が続いています。ほ場巡回を行いました。枝豆ではハスモンヨトウ、ブロッコリーではキスジノミハムシ、ハスモンヨトウ、ハイマダラノメイガを確認しました。高温・乾燥が続く、害虫の活動も活発になっています。引き続きほ場の観察をお願いします。

【ハイマダラノメイガに引き続き注意！！】

【概要】 一般に高温少雨の条件で多く発生し、アブラナ科野菜(こまつなやチンゲンサイ、キャベツ、ハクサイなど)の生長点を食害します。発芽直後の被害は欠株となり、本葉3~4枚頃の被害では生長が止まり奇形株となります。

8~9月の高温、乾燥時に多発します。本葉1~2枚の頃から防除してください。

【対策】防虫ネット等による飛来防止、幼苗期の灌注処理、生育初期や発生前の予防的な防除



ブロッコリー ハイマダラノメイガ 適用農薬情報				
農薬名	IRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数
ディアナSC	5	2500~5000倍	収穫前日まで	2回以内
プレバソフロアブル5	28	2000倍	収穫前日まで	3回以内
ヨーバルフロアブル	28	2500~5000倍	収穫前日まで	3回以内

キャベツ・ハクサイ ハイマダラノメイガ 適用農薬情報

農薬名	IRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数
アニキ乳剤	6	1000~2000倍	収穫3日前まで	3回以内
プレバソフロアブル5	28	2000倍	収穫前日まで	3回以内
ヨーバルフロアブル	28	2500~5000倍	収穫前日まで	3回以内
プロフレアSC	30	2000~4000倍	収穫前日まで	3回以内

【ハスモンヨトウ増加！！注意！！】

【概要】 葉裏に生息し、葉を食害します。被害部は若齢幼虫の頃は表皮を残して白色かすり状になりますが、多発時には葉脈だけ残しレース状になります。卵は数百個が一塊となって葉に産みつけられ幼虫は6齢を経過し成長すると40mmにもなります。

被害は6月頃から見られ、8月下旬から10月まで被害が増加します。

【対策】卵からふ化した若齢幼虫(1~2齢)は集団となって葉を食害しますが

その後成長するに従い分散していくので、若齢のうちに葉裏に薬剤がよくかかるように防除を行います。また、卵塊を見つけた場合は、直ちに処分してください。

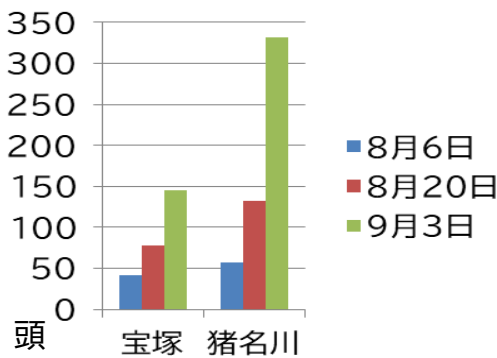
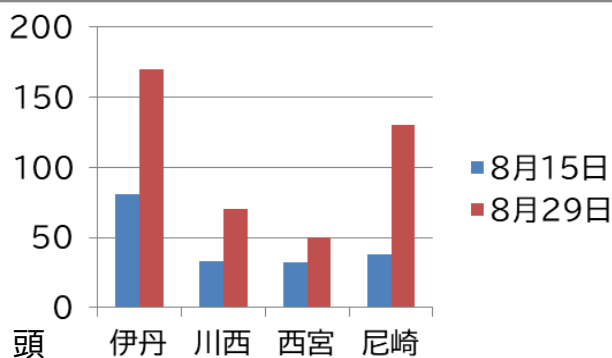


えだまめ ハスモンヨトウ 適用農薬情報

農薬名	IRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数
プレバソフロアブル5	28	4000倍	収穫3日前まで	3回以内
アニキ乳剤	6	2000~3000倍	収穫前日まで	3回以内

ハクサイ・キャベツ・ブロッコリー・レタス ハスモンヨトウ 適用農薬情報

農薬名	IRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数
アニキ乳剤	6	1000~2000倍	収穫3日前まで	3回以内
ヨーバルフロアブル	28	2500~5000倍	収穫前日まで	3回以内
ディアナSC	5	2500~5000倍	収穫前日まで	2回以内



ハスモンヨトウ
 捕殺頭数
 8月上旬に設置したハスモンヨトウのトラップでは、お盆明けからの捕殺頭数が増えています。生育に大きな影響が出ますので、発見次第早期薬剤散布下さい。

必ず農薬のラベルを確認し、使用基準を順守下さい。本件に関するお問い合わせは、お近くの営農支援センター又は阪神農業改良普及センターまで。

JA兵庫六甲のHPにも掲載。生産者の皆様へ<<その他<<阪神南部地区・阪神北部地区 野菜 水稻情報を参考下さい。

発生予察情報誌(阪神管内 南部・北部)

高温による乾燥注意！！

発行：阪神地区営農振興協議会 農業技術分科会 2024年8月6日

全国的に猛暑日が続いています。ほ場巡回を行いました。全体的に灌水が足りていません。

果菜類では高温による、なり疲れ等が見られました。引き続きほ場をよく観察し、状況に応じた対応をお願いします。

【ハイマダラノメイガに注意】

一般に高温少雨の条件で多く発生し、アブラナ科野菜(こまつなやチンゲンサイ、キャベツ、ハクサイなど)の生長点を食害します。発芽直後の被害は欠株となり、本葉3~4枚頃の被害では生長が止まり奇形株となります。対策：防虫ネット等で飛来を防止する。幼苗期の灌注処理、生育初期や発生前に予防的に防除する。

こまつな・チンゲンサイ		ハイマダラノメイガ		適用農薬情報	
農薬名	IRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数	
ディアナSC	5	2500~5000倍	収穫前日まで	2回以内	

キャベツ・ハクサイ		ハイマダラノメイガ		適用農薬情報	
農薬名	IRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数	
アニキ乳剤	6	1000~2000倍	収穫3日前まで	3回以内	
プレバソフロアブル5	28	2000倍	収穫前日まで	3回以内	
ヨールフロアブル	28	2500~5000倍	収穫前日まで	3回以内	
プロフレアSC	30	2000~4000倍	収穫前日まで	3回以内	



秋冬野菜の定植が始まります。定植時や定植後の灌水をしっかり行い、苗の活着を促すことが大切です。活着が悪くなると収穫期がずれ込むため、苗の初期生育を確保しましょう。

【ネギの害虫 シロイチモジヨトウに注意】

ネギを加害する主なヨトウムシ類のひとつで、孵化直後の若齢幼虫の時に防除し、葉身への侵入防止が被害を最小にするポイントです。ネギ表皮には水分をはじくワックス層があるので、展着剤を加え薬剤散布してください。



ネギ		シロイチモジヨトウ		適用農薬情報	
農薬名	IRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数	
グレーシア乳剤	30	2000~3000倍	収穫7日前まで	2回以内	
アフーム乳剤	6	1000~2000倍	収穫7日前まで	3回以内	
アディオ乳剤	3A	2000倍	収穫7日前まで	3回以内	
プレバソフロアブル5	28	2000倍	収穫3日前まで	3回以内	
ディアナSC	5	2500~5000倍	収穫前日まで	2回以内	

【イチジクの疫病・さび病に注意】

定期的な薬剤散布 9月の長雨にも使用出来るよう、使用回数に注意！！

品目	病害名	薬剤名	FRACコード	希釈倍率	使用時期	使用回数
イチジク	疫病	アミスター10フロアブル	11	1000倍	収穫前日まで	3回以内
		ランマンフロアブル	21	2000倍	収穫前日まで	3回以内
		ダコニール1000	M05	2000倍	収穫前日まで	2回以内
	さび病	アミスター10フロアブル	11	1000倍	収穫前日まで	3回以内
		アンビルフロアブル	3	1000倍	収穫前日まで	2回以内
		ダコニール1000	M05	2000倍	収穫前日まで	2回以内



マダラ模様の病斑
写真：疫病

水稲情報 トビイロウンカに注意！！

早いところでは8月下旬より稲刈りが始まります。

ウンカ類・カメムシ類の発生が多く見られるようになってきました。

ウンカ類・カメムシ類は引き続き注意が必要ですので、

圃場をよく観察し、適期防除をお願いします。写真：トビイロウンカとその被害(坪枯れ)



農薬名	IRAC	適用害虫	10a当たりの使用量	使用時期	使用回数
トレボン粉剤DL	3A	カメムシ類、イネミズゾウムシ成虫、ツマグロヨコバイ、ウンカ類、コブノメイガ、アザミウマ類、イナゴ類、イネドロオイムシ、ニカメイチュウ	3~4Kg	収穫7日前まで	合計3回以内
スタークル粒剤	4A	ウンカ類、ツマグロヨコバイ、ニカメイチュウ、イネドロオイムシ、カメムシ類	3Kg		
スタークル豆つぶ剤		ウンカ類、ツマグロヨコバイ	250~500g		
		カメムシ類	250g		合計3回以内 ※スタークル粒剤、スタークル豆つぶは同じジノテフランを成分とするため

必ず農薬のラベルを確認し、使用基準を順守下さい。本件に関するお問い合わせは、お近くの営農支援センター

又は阪神農業改良普及センターまで。

JA兵庫六甲のHPにも掲載。生産者の皆様へ<<その他<<阪神南部地区・阪神北部地区 野菜 水稲情報を参考下さい。

発生予察情報誌(阪神管内 南部・北部)

害虫増加中！！

発行: 阪神地区営農振興協議会 農業技術分科会 2024年5月14日

阪神管内の圃場を巡回したところ、ハウス、露地ともに害虫の発生が見られました。

作物の被害を最小限に食い止めるためにも、早期発見、早期防除の徹底をお願い致します。



アザミウマ(スリップス)類 体長1.0~1.7mm程度

4月頃より多発

幅広い作物を加害、多発すると防除が難しいため、早めの防除が必要。

タマネギ アザミウマ類 適用農薬情報

農薬名	IRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数
アディオソ乳剤	3A	3000倍	収穫7日前まで	5回以内
グレースシア乳剤	30	2000~3000倍	収穫7日前まで	2回以内
ディアナSC	5	2500~5000倍	収穫前日まで	2回以内

キュウリ アザミウマ類 適用農薬情報

農薬名	IRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数
ディアナSC	5	2500~5000倍	収穫前日まで	2回以内
グレースシア乳剤	30	2000倍	収穫前日まで	2回以内

※上記・右記 薬剤散布量100~300L/10a

トマト アザミウマ類 適用農薬情報

農薬名	IRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数
グレースシア乳剤	30	2000倍	収穫前日まで	2回以内
ディアナSC	5	2500~5000倍	収穫前日まで	2回以内
モスピラン顆粒水溶剤(劇)	4A	2000倍	収穫前日まで	3回以内

ナス アザミウマ類 適用農薬情報

農薬名	IRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数
グレースシア乳剤	30	2000倍	収穫前日まで	2回以内
ディアナSC	5	2500~5000倍	収穫前日まで	2回以内
モスピラン顆粒水溶剤(劇)	4A	2000~4000倍	収穫前日まで	3回以内

エダマメのカメムシ類

さや内の子実が吸汁され、変色や変形、子実の肥大が止まる被害が懸念されるため、発生数が増える前に薬剤散布にて防除下さい。

写真 エダマメの莢に群がるマルカメムシ



エダマメ カメムシ類 適用農薬情報

農薬名	IRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数
スミチオン乳剤	1B	1000倍	収穫21日前まで	4回以内
トレボン乳剤	3A	1000倍	収穫14日前まで	2回以内
スタークル顆粒水溶剤	4A	2000倍	収穫7日前まで	2回以内

果樹のカメムシ類

新聞や県関係機関から注意報がでるほど果樹カメムシ類の発生が平年を大きく上回る発生数となっています。定期的な薬剤散布と、袋かけを平年より早めるなどの

写真ももの樹園地
ツヤアオカメムシの死骸



対策をお願いします。※下記薬剤散布量200~700L/10a

もも カメムシ類 適用農薬情報

農薬名	IRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数
アディオソ乳剤	3A	2000倍	収穫7日前まで	6回以内
アグロスリン水和剤(劇)		1000~2000倍	収穫前日まで	5回以内

かんきつ カメムシ類 適用農薬情報

農薬名	IRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数
アディオソ乳剤	3A	2000倍	収穫14日前まで	6回以内
アグロスリン水和剤(劇)		2000倍	収穫7日前まで	3回以内

降雨前に殺菌剤で予防をしましょう

降雨量や降雨間隔によりますが、降雨前に殺菌剤を散布しましょう。雨が降る前に薬剤散布を行うと散布した農薬が流れてしまわないかと危惧されますが、降雨前に散布することで、病原菌から作物体を守り、病気の発生を抑えます。

降雨や曇天の日が続くと、雨水の停滞により根傷みをおこすことや、水と一緒に窒素を過剰吸収し、徒長した部分が軟弱になるなど病気にかかりやすくなります。対策として、

- ①降雨前に殺菌剤を散布
- ②過剰な追肥をひかえる
- ③降雨が溜まらないように排水口の再点検を！！

× 水が溜まっている悪い例→



必ず農薬のラベルを確認し、使用基準を順守下さい。本件に関するお問い合わせは、お近くの営農支援センター又は阪神農業改良普及センターまで。

JA兵庫六甲のHPにも掲載。生産者の皆様へ<<その他>>阪神南部地区・阪神北部地区 野菜 水稻情報を参考下さい。

発生予察情報誌(阪神管内 南部・北部)

たまねぎのべと病に注意してください！！

発行: 阪神地区営農振興協議会 農業技術分科会 2024年3月15日

3月13日に兵庫県病害虫防除所にて、たまねぎのべと病の注意情報が掲載されました。今後の天気予報において気温が高く、べと病が発生しやすい条件であると予想されますので、早期予防に努めてくださいますようお願い致します。**特に降雨前の予防散布が重要です。**
※たまねぎ、葉たまねぎは登録内容が異なりますのでご注意ください。

たまねぎ べと病 適用農薬情報				
農薬名	FRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数
ダコニール1000	M5	1000倍	収穫7日前まで	6回以内
シグナム WDG	11・7	1500倍	収穫7日前まで	3回以内
ランマンフロアブル	21	2000倍	収穫7日前まで	4回以内
プロポーズ顆粒水和剤	40・M5	1000倍	収穫7日前まで	3回以内
リドミルゴールドMZ	M3・4	500~1000倍	収穫7日前まで	3回以内
アミスター20フロアブル	11	2000倍	収穫前日まで	4回以内
オロンディスウルトラSC	49・40	2000倍	収穫前日まで	2回以内

NEW

※薬剤耐性菌の出現を防ぐため、同じ系統の薬剤散布は避け、作用性の異なる薬剤をご使用ください。ダコニール1000とプロポーズの成分TPNが同じものはプロポーズは計3回まで、ダコニールはプロポーズとあわせて計6回までとなりますので、ご注意ください。

葉たまねぎ べと病 適用農薬情報				
農薬名	FRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数
ランマンフロアブル	21	2000倍	収穫3日前まで	4回以内
アミスター20フロアブル	11	2000倍	収穫3日前まで	3回以内

葉たまねぎは、たまねぎと登録が異なります！！



写真1(上)の全身感染株は発見次第、圃場から持ち出して処分してください。



写真2(上)全身感染株が感染源となって二次感染株が発生し、ひどい場合は枯死する。

【発生条件】病原菌は卵胞子を形成し、土中に入り、越冬する。秋に降雨等により分生胞子を形成し飛散・伝染する。秋に発病して枯死してしまうものもあるが、生長点に菌糸が侵入し、葉の伸長とともに菌糸も伸長して株全体が保菌し、罹病株として越冬するものもある。**春に降雨が多いと多発する。**

【防除ポイント】罹病葉は集めて焼却する。薬剤散布で防除を行う。圃場の排水をよくする。降雨前に薬剤が乾くように余裕をもって、ムラのない散布をお願いします。

必ず農薬のラベルを確認し、使用基準を順守下さい。本件に関するお問い合わせは、お近くの営農支援センター又は阪神農業改良普及センターまで。

JA兵庫六甲のHPにも掲載。生産者の皆様へ「その他」< 阪神南部地区・阪神北部地区 野菜 水稻情報を参考下さい。

